

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社)東京形成歯科研究会

Vol.7

配信日：2019年8月27日

配信元：(一社)東京形成歯科研究会 事務局

紀行文

(一社)東京形成歯科研究会 会員同士の交流について

「長岡まつり」花火大会に参加して

(医)信州口腔外科インプラントセンター／(一社)東京形成歯科研究会 相談役・理事 北村 豊

秋田の大曲、茨城の土浦と並んで日本三大花火大会のひとつでもあり、“フェニックス”で有名な新潟県長岡市の大花火大会を初めて見に行ってきた。



長野県北部にある小布施在住の私にとっては比較的近いにもかかわらず、“見たい気持ち”がずっと以前よりありながら、“大混雑”の三文字のイメージに敗けて行けずじまいであった。

しかし、当会会員でもあり長岡が地元である渡辺泰典先生のお誘いで、参加してきた。

長岡花火は、毎年 8 月の 2・3 日と決まっている。

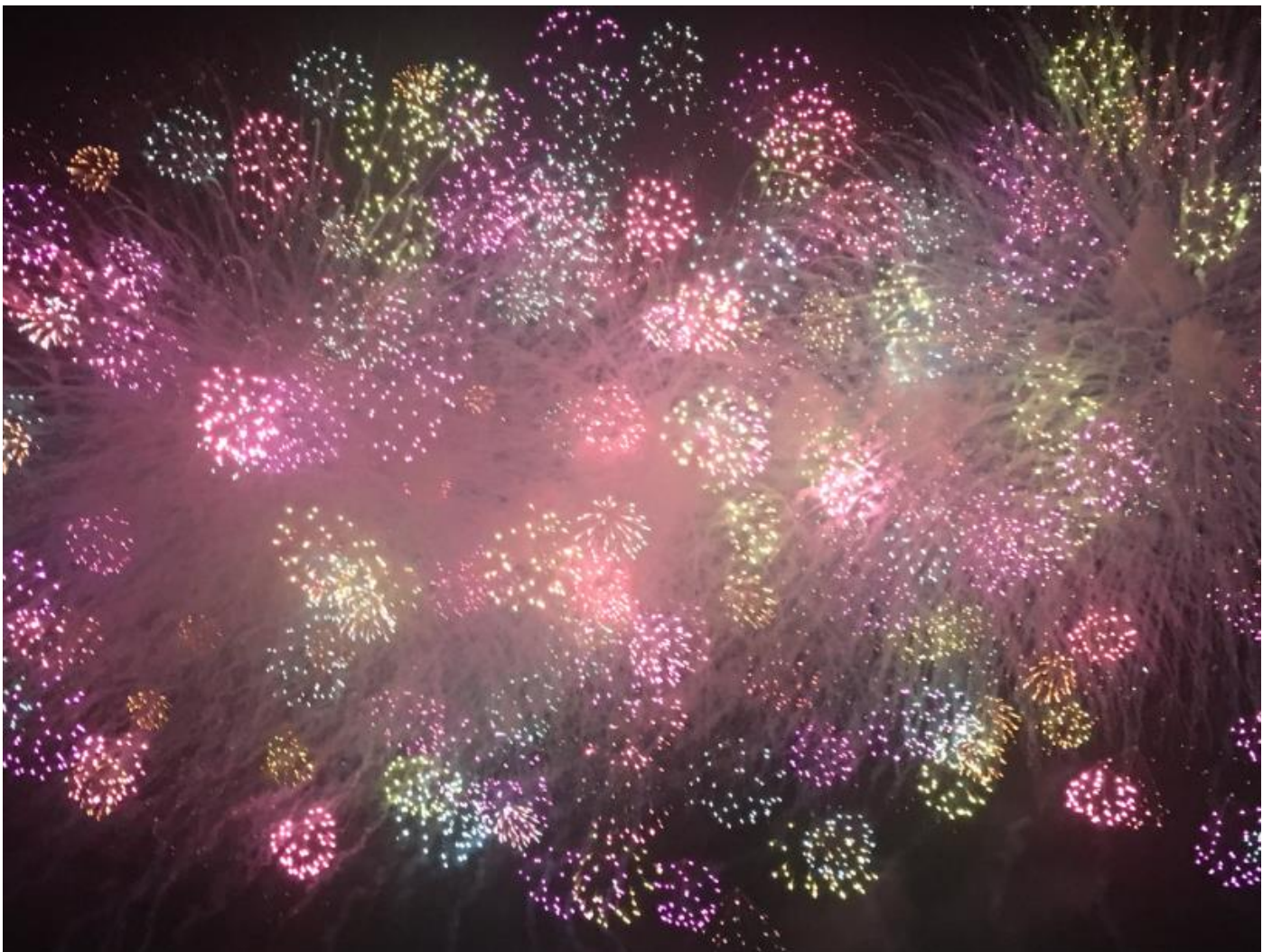
それは昭和 20 年 8 月 1 日の長岡大空襲の翌年、長岡市民が復興に立ち上がり、早や昭和 22 年に花火大会が復活したという。

「長岡花火」の歴史を振り返ると先人達がつないできた「慰霊」、「復興」、「平和への祈り」の強い想いが息づいていることがわかる。

会場は信濃川の河川敷であったが、当日の早い時間に渡辺先生が特等席を確保してくれていた場所に私たち家族や、同じ TPDS(東京形成歯科研究会)会員の田中かずさ先生も参加されて陣取ることとなり、TPDS 長岡花火分科会と相成ったのである。

日没と共に打ち上げられる花火の一番のおすすめポイントは渡辺先生に取っていただいた長岡大橋と大手大橋の間の右岸(川の流れを下に見て右側)ではないだろうか？！

この二つの橋の間の距離、約 2km を中心に沢山の花火が打ち上げられるが、とくに有名なのはこの区間の全長 2km にもおよぶ「フェニックス」ではないだろうか！



花火大会は日没の午後 7 時 20 分頃より始まるが、そのしばらく前からは河川敷に設置された 10 基以上の簡易トイレに人が並び始め、あっという間に長蛇の列となった。人が並び始めると腹？いや膀胱八分目に達していなくてもツレション現象が起きるのだろう……。都会でも客が列をなして並んでいる店があると“気になる”のと同じで“バンドワゴン効果”と呼ばれている。これは「ある選択を支持する人が多ければ多いほど、その選択に根拠がなくとも“正しいと思ひ込む群集心理”」のことである。このような同調行動が「安心感を得た

い」という心理に支えられていて、セロトニンが関与していることが脳科学の研究で分かってきている。会員の諸先生方も安心感を得たいがために当会に所属しておられるとすれば、それはちょっと……。

私の言いたかったことは、ツレションではなく、信念をもって行動してほしいということである。欧米人に比べて個人の判断よりも集団の決定の方が正しいと思いやすい日本人には要注意であろう。

だいぶん脱線したので軌道修正したい。

長岡の花火は、一つ一つ丁寧に打ち上げ提供者の名前や願いも読み上げられ、それらの人々の花火に込められた思いもひしひしと伝わるものであった。

伝え聞くところによると尺玉(直径 30.3cm)は火花が長径 300m位におよび、都会では防災上、禁止されているとのことであったが、長岡ではその尺玉 100 連発も見られ、都会とはスケールが全く違っていた！

さらに初めて見た正三尺玉は、直径 650mにもおよぶ圧巻の花火であり、見事！の一言につきるものであった。

また平原綾香さんの“Jupiter”の歌声にも合わせて打ち上げられたり、ストーリー性があったりと、私が今までに見た諏訪湖の花火などと違って会場も広大で、人も密集というほどでもなく、とてもゆったりと良く見えて、長岡の人々の鎮魂の思いも非常によく伝わる花火大会であったのがとても印象的であった。



このような機会をつくっていただいた渡辺泰典先生と観覧席での楽しい飲食の準備をしてくださった縁の下の“力持ち”の田中かずさ先生に感謝いたします。

人の頭を沢山見に行きたい、群れたい方は都会、そしてゆっくりと情緒も感じながら見たい方は長岡へどうぞ！